

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科： 芸術 科目： 音楽 I 単位数： 2 単位  
 対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組  
 教科担当者：（1～7組：天野）  
 使用教科書：（教育芸術社 MOUSA 1）  
 使用教材：（）  
 科目の目標

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ②創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①実技テスト ②授業内発表・小テスト	①実技テスト ②提出物の内容 ③授業内グループ発表等	①学習に取り組む状況 ②ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)							記 時 間	評 価	
								1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組			
1	4	・楽曲に合わせてカップを用いたリズム奏を行うことができる。 ・リズム譜を読み取り、演奏することができる。 ・正しい音程・リズム・歌詞で歌うことができる。 ・歌詞の意味を考慮することができる。 ・ト音記号とヘ音記号の楽譜を正しく読むことができる。	カップソング・ボディーパーカッション  校歌  楽典：楽譜の読み方・書き方、音符の種類	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート									28	
	6	・様々な音符や休符を5線譜に書くことができる。 ・世界の音楽の音色、表現など音楽を形作る要素を感じることができる。 ・ポップスの持つ独特なリズムを感じ取り、表現することができる。 ・ミュージカル「アラジン」の楽曲を歌唱するとともに、「アラジン」を鑑賞し、物語の内容から歌唱表現を工夫する。	楽典：写譜 世界の諸民族の音楽  Lemon  歌唱・鑑賞 「アラジン」	○	○	○	観察 実技テスト 振り返りシート										
2	9	・世界の様々な舞台芸術について知り、その表現の特徴を感じ取ることができる。 ・三線の正しい奏法を身につけることができる。 ・自主的に練習に取り組むことができる。	舞台芸術 オペラ・ミュージカル  三線 基礎練習 「海の声」導入部分	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート									30	
	10	・自らのパートを正確に演奏し、他のパートとの調和を意識して歌唱できる。	合唱 合唱コンクールの演奏曲の歌唱														
3	1	・三線を演奏しながら「涙そうそう」の歌唱をすることができる。 ・各曲の雰囲気を感じとり、リズムやハーモニーを聞きながら演奏する。	三線「海の声」サビ全体 「涙そうそう」(発展)  負けないで 若者のすべて	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート									20	
	2	・正しい音程とリズム、イタリア語の発音で歌うことができる。 ・歌詞の内容を考え、気持ちを込めて歌うことができる。	歌唱 「Caro mio ben」	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート										
3	3	・ミュージカル「美女と野獣」の重唱を歌唱するとともに、「美女と野獣」を鑑賞し、物語の内容から歌唱表現を工夫する。	歌唱・鑑賞 「美女と野獣」	○	○	○	観察 振り返りシート										

高等学校 令和7年度（2学年用）

教科

芸術

科目 音楽Ⅱ

教科： 芸術 科目： 音楽Ⅱ

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1～7組：天野）

使用教科書：（教育芸術社 MOUSA 2）

使用教材：（ ）

科目の目標

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ②創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①実技テスト ②授業内発表・小テスト	①実技テスト ②提出物の内容 ③授業内グループ発表等	①学習に取り組む状況 ②ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)							配 当 時 間	評 価		
								1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組				
1	4	・楽譜を正確に読み取り、正しい発声で歌唱することができる。 ・母音唱法を用い、響きのある発声を意識して歌うことができる。	歌唱 alleluja  器楽 三線：ハナミズキ		○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート									28	
	6	・ト音記号とヘ音記号の楽譜を正しく読み、記譜することができる。 ・演奏から音名・リズムを正確に読み取ることができる。 ・世界の音楽の音色、表現など音楽を形作る要素を感じとることができる。 ・ポップスの持つ独特なリズムを感じ取り、表現することができる。	楽典：楽譜の読み方・書き方、音符の種類・ソルフェージュ  世界の諸民族の音楽		○	○	○	観察 実技テスト 振り返りシート										
	7	・ギターの各部の名称を理解している。 ・1弦から6弦までを正しい音程にチューニングできる。 ・単音のメロディーの演奏をすることができる。 ・TAB譜の基本的な読みができる。	ギター：各部の名称、チューニング  「第三の男」 「日曜日よりの使者」		○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート										
2	1	・コードを用いた簡単な伴奏付けをして、弾き歌いができる。 ・正しい音程とリズム、イタリア語の発音で歌うことができる。 ・歌詞の内容を考え、気持ちを込めて歌うことができる。	「日曜日よりの使者」  歌唱 「Caro mio ben」		○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート									30	
	2	・メロディーや歌詞の意味から内容を理解し、表現の創意工夫をして歌うことができる。声を合わせてハーモニーを意識して重唱ができる。 ・学習した既習曲と関連付けながら鑑賞することができる。	歌唱 「美女と野獣」  鑑賞 ミュージカル「美女と野獣」		○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート										
3	3	・学習した既習曲と関連付けながら鑑賞することができる。	鑑賞 ミュージカル「美女と野獣」		○	○	○	観察 振り返りシート									20	

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 芸術 科目 芸術探究（音楽）

教科： 芸術 科目： 芸術探究（音楽） 単位数： 2 単位  
 対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組  
 教科担当者： （1～7組：天野）  
 使用教科書： （教育芸術社 MOUSA1、MOUSA2）  
 使用教材： （ ）  
 科目の目標

- 【知識及び技能】歌唱表現に関わる知識や技能を総合的に働かせながら、歌唱表現を創意工夫する技術を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。歌唱・器楽表現に関わる知識や技能を総合的に働かせながら、表現を創意工夫する技術を習得する。
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。アンサンブルの諸活動とおして、他者と協働して音楽作品を作り上げる心情を養う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ②創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①実技テスト ②授業内発表・小テスト	①実技テスト ②提出物の内容 ③授業内グループ発表等	①学習に取り組む状況・ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)							配当時間	評価	
								1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組			
1	4	・楽譜を正確に読み取り、正しい発声で歌唱することができる。 ・歌詞に込められた感情を読み取り、表現を工夫することができる。 ・ミュージカルの特性・特徴を理解し、楽曲に注目しながら鑑賞することができる。	歌唱 「The Phantom of the Opera」 「All I ask of you」 鑑賞 オペラ座の怪人	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート									28	
	6	・演奏から音名・リズムを正確に読み取ることができる。正確にリズムを打つことができる。 ・オペラアリアの音楽表現・発声方法など音楽を形作る要素を感じとることができる。 ・ボッパスの持つ独特なリズムを感じ取り、表現することができる。	ソルフェージュ オペラ・アリアを味わおう One more time, One more chance	○	○	○	観察 実技テスト 振り返りシート										
2	9	・自身のパートを正しい音程とリズムで歌唱できる。 ・歌詞の内容を考え、気持ちを込めて歌うことができる。 ・他のパートとの調和を意識しながら歌うことができる。	歌唱：合唱 「チェスボード」 「あなたのことを」	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート									30	
	1	・指番号を正しく演奏することができる。 ・単音のメロディーの演奏をすることができる。 ・ト音記号へ音記号の基本的な読みができる。 ・簡単な伴奏付けをして、両手で演奏することができる。 ・個人、グループ等で一人一台端末を用いて演奏動画作品を作成する。これまでの学習内容を活かし、創意工夫した演奏表現ができる。	ピアノ：「ザナルカンドにて」 演奏作品創作	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート										
3	1	・個人、グループ等で一人一台端末を用いて演奏動画作品を作成する。これまでの学習内容を活かし、創意工夫した演奏表現ができる。	演奏作品創作	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート									6	

**高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 芸術 科目 保育ピアノ演習**

教科： 芸術 科目： 保育ピアノ演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1～7組：森）

使用教科書：（教育芸術社 MOUSA 2）

使用教材：（バーナムピアノ教本ブック1・2（全音楽譜出版社）／全訳バイエルピアノ教則本（全音楽譜出版社））

科目の目標

- 【知識及び技能】 ピアノ演奏に必要な最低限の楽典、基礎的なピアノ演奏の技術を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】 楽曲の雰囲気を感じ取り、曲に応じた演奏表現を工夫することができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 保育士という目標に向かって、他社と協力して演奏技術の向上を目指すことができる。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①ピアノ演奏に必要な楽典の知識を身に付けている。 ②基礎的な音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもって演奏できる。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①実技テスト ②授業内発表・小テスト	①実技テスト ②提出物の内容 ③授業内グループ発表等	①学習に取り組む状況・ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)							配 当 時 間	評 価
								1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組		
1	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ト音記号とヘ音記号の読み方を理解する。</li> <li>・調号や臨時記号の仕組みを理解する。</li> <li>・音符と休符の違いを理解する。</li> <li>・楽譜と鍵盤の位置を対応させ、演奏することができる。</li> <li>・楽譜に記載された連指で演奏することができる。</li> <li>・指をよく動かし、一つ一つの音を丁寧に演奏することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーナムピアノ教則本1巻</li> <li>楽譜の読み方</li> <li>鍵盤の確認</li> <li>連指の確認</li> <li>個別レッスン</li> </ul>	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート								28	
	5															
	6															
	7															
2	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8分音符を数えながら演奏できる。</li> <li>・#、b等の臨時記号、調合を認識して演奏することができる。</li> <li>・指の交差を意識して演奏することができる。</li> <li>・基礎的な演奏技術を生かして、楽曲の弾き歌いができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーナムピアノ教則本2巻・バイエル</li> <li>楽譜の読み方</li> <li>鍵盤の確認</li> <li>連指の確認</li> <li>個別レッスン</li> <li>・自由曲</li> </ul>	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート								30	
	10															
	11															
	12															
3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏発表会に向けて、知識・技能を習得し、表現を工夫しながら弾き歌いの演奏ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏発表会</li> </ul>	○	○	○	観察 実技テスト グループ活動 振り返りシート								6	



高等学校 令和7年度（2学年用）

教科 芸術

科目 美術Ⅱ

教科： 芸術 科目： 美術Ⅱ

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1～7組：吉田）

使用教科書：（光村図書 美術2）

使用教材：（ ）

科目の目標

【知識及び技能】造形的なものの見方や考え方について理解を深めるとともに、基礎的な力を身に付け、表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにさせる。

【思考力、判断力、表現力等】独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、必要な情報を収集し、個性を生かした発想や構想を練ったり主体的・積極的に取り組み、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにさせる。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、完成と美意識を磨き心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。粘り強い制作活動の中で、集中力を維持できる力を養う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①造形的なものの見方や考え方について理解を深めている。 ②表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。 ③丁寧に制作し作業量が多く主体的・積極的に取り組んだ痕跡が見られる。	①個性を生かして発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や価値観を深めたりしている。 ②制作の手順を完成から逆算して構築しようとしている。 ③制作に必要な資料を調べたりして用意できる。	①主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。 ②集中力を維持して、粘り強い制作活動ができる。 ③振り返りで自らの活動を総括できる。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①作品	①作品 ②提出物の内容	①学習に取り組む状況 ②ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)							配当時間	評価					
								1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組							
1	4	ガイダンス フォトリアリズム	・授業の受け方について理解できる。  ・白黒の写真から輪郭線や稜線、構造や質感の違いを表す線を選び取り、画用紙に写し取ることができる。 ・色の混ぜ方を学習し適切な色を作ることができる。 ・写真を見ておおよその色を薄塗りで塗り下地を作ることができる。 ・個有色に補色を混ぜて作り、陰影を描いていくことで立体感を出すことができる。 ・明暗や彩度の対比の強弱を使って奥行を表現することができる。 ・粘り強く作業することができる。	○	○	○	観察 作品 ワークシートの記述									28					
	5																				
	6																				
	7																				
2	9	彫刻スプーン・フォークづくり	・用と美という工芸の本質を理解できる。 ・スプーンフォークの用途を意識しつつ自分なりに工夫してデザインできる。 ・糸鋸機械を扱うことができる。 ・木材の逆目と順目に注意して道具を扱える。 ・小刀を適切に扱うことができる。 ・彫刻刀を適切に扱うことができる。 ・紙やすりを荒いものから細かい順に扱うことができる。 ・ウレタンニスか亜麻仁油で2度塗りして表面をきれいに仕上げるることができる。	○	○	○	観察 作品 ワークシートの記述									30					
	10																				
	11																				
	12																				
3	1	想像のデッサン	・身近なものをモチーフと設定することができる。 ・変化の方向性を示すエッセンスを利用して、想像を膨らませ、モチーフを変化させて背景も併せてエスキースすることができる。 ・個有色、立体感、奥行きを描ける。	○	○	○	観察 作品 ワークシートの記述									20					
	2	レタリング	・「永」の文字をゴシック体と明朝体で書体を書き写すことができる。 ・明朝体などではウロコを適切に表現することができる。 ・きれいに着彩することができる。					○	○	○	観察 作品 ワークシートの記述										
	3																				

高等学校 令和7年度（3学年用）

教科 芸術

科目 美術探究

教科： 芸術 科目： 美術探究

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（美術探究：吉田）

使用教科書：（なし）

使用教材：（ ）

科目の目標

【知識及び技能】造形的なものの方や考え方について理解を深めるとともに、基礎的な力を身に付け、表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにさせる。

【思考力、判断力、表現力等】独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、必要な情報を収集し、個性を生かした発想や構想を練ったり主体的・積極的に取り組み、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにさせる。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、完成と美意識を磨き心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。粘り強い制作活動の中で、集中力を持続できる力を養う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①造形的なものの方や考え方について理解を深めている。 ②表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。 ③丁寧に制作し作業量が多く主体的・積極的に取り組んだ痕跡が見られる。	①個性を生かして発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や価値観を深めたりしている。 ②制作の手順を完成から逆算して構築しようとしている。 ③制作に必要な資料を調べたりして用意できる。	①主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。 ②集中力を維持して、粘り強い制作活動ができる。 ③振り返りで自らの活動を総括できる。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①作品	①作品 ②提出物の内容	①学習に取り組む状況 ②ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)					配当時間	評価
								美術探究						
1	4	文化祭用ポスター もしくは 入試用課題制作	課題に沿って実践的な表現活動を行うことができる	○	○	○	観察 作品 ワークシートや振り返りの記述 講評・鑑賞						28	
	5		作品を見せる対象を想定して構想を練ることができる											
	6		自ら工夫し技法を凝らして粘り強く探究活動ができる											
	7		他の生徒作品を鑑賞しよさや工夫したところを発見し説明できる。											
2	9	文化の祭典用ポスター もしくは 進学先に対応した課題	文化祭用ポスターの反省を生かし文化の祭典のポスターを制作できる	○	○	○	観察 作品 ワークシートや振り返りの記述 講評・鑑賞						30	
	10		10団体が参加している、もしくは文化部の発表会であるとわかるように表現できる											
	11		自ら工夫し技法を凝らして粘り強く探究活動ができる											
	12		他の生徒作品を鑑賞しよさや工夫したところを発見し説明できる。											
3	1	瓶の鉛筆デッサン	光の方向を設定し適切な陰影表現で立体感を表現できる 白黒の対比や彩度を調整して前後の空間を表現できる 瓶の透けている様子やモチーフの向こう側の景色をガラスの屈折を加味して表現し透明感やガラスの質感を表現できる	○	○	○	観察 ワークシートや振り返りの記述 鑑賞						6	



# 高等学校 令和7年度（2学年用）

# 教科 芸術

# 科目 書道Ⅱ

教科： 芸術 科目： 書道Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 3 組～ 7 組

教科担当者：（3～7組：坂本）

使用教科書：（光村図書 書2）

使用教材：（書道具、プリント）

科目の目標

- 【知識及び技能】
- ①書写の表現と伝統文化を理解することができる。
  - ②正しい姿勢や執筆法で正確に執筆することができる。
  - ③授業開始10～20分にその日の課題説明をするため遅刻せずに授業に臨むことができる。
- 【思考力、判断力、表現力等】
- ①書体に合わせて表現方法の違いを理解し、書よさや美しさを味わって捉えることができる。
  - ②仮名の伝統に即した用筆・運筆・字形・全体の構成について構想し工夫している。
  - ③今、何をすべきか判断し、取り組むことができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】
- ①丁寧に真剣に文字と向き合い表現することができる。
  - ②自己表現の追求のために集中して課題に取り組むことができる。
  - ③休まず、遅刻せず、毎回の授業に取り組むことができる。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①国語科の中の書写と芸術科の中の書道の違いを理解している。 ②硬筆（ボールペン）での書き方を理解し、表現している。 ③毛筆での書く姿勢・執筆法を正しく理解し、実践できている。 ④説明をしっかり聞くことが出来、自ら考え、実践出来ている。	①用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ②楷・行書のきっちりとした線質による表現の技能が身につけている。 ③中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成が表現できている。 ④文字を書くことだけでなく、授業に臨む姿勢を理解し取り組むことができている。	①毎時間に取り組む課題を時間内に仕上げられている。 ②丁寧に真剣に文字と向き合い表現することができる。 ③自己表現の追求のために課題に取り組むことができている。 ④欠席・遅刻・居眠り・授業不参加などせず前向きに取り組むことができる。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①作品 ②映像教材視聴プリント他	①作品 ②提出物の内容（硬筆課題も含む） ③今、何をすべきかの判断力	①学習に取り組む状況 ②ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績（実施日）					配当時間	評価
								3組	4組	5組	6組	7組		
1	4	・休まず、遅刻せず出席し、心を落ち着け、他人に迷惑をかけず、書道に取り組むことができる。	楷書、行書、隷書の学習				観察 作品 ワークシートの記述 (硬筆テキスト) 映像教材視聴プリント内容						28	
	5	・古い時代の書体（隷書・篆書）の特色ある用筆法がしっかりできる） ・篆書で石を刻するにあたり、刀の使い方、石へのあて方が思うようにできる。 ・それぞれの課題に真剣に取り組むことができる。	江戸書道展 全国公募千文字大会 出品作品への取り組み											
	6													
2	7													
	9	・文字を美術的に書くことができる。 ・彩色ボードを使い、文字を刻すことができるようにできる。 ・細字（写経、日常の書）をすることにより、集中力を養うことができる。	刻字の学習 作品展示 小筆の学習 写経、仮名、実用書				観察 作品 ワークシートの記述 (硬筆テキスト) 映像教材視聴プリント内容						30	
	10													
11														
3	1													
	2													
	3	・草書の文字のくずし方と写形を理解し、書くことができる。 ・書道Ⅰ、書道Ⅱで学んだ知識と用筆法を使い、自分らしい表現ができる。	草書の学習 創作作品制作				観察 作品 ワークシートの記述 (硬筆テキスト) 映像教材視聴プリント内容						20	

高等学校 令和7年度（3学年用）

教科 芸術

科目 書道探究

教科： 芸術 科目： 書道探究

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 3 組～ 7 組

教科担当者： 川原

使用教科書：（光村図書 書Ⅰ・Ⅱ）

使用教材：（書道具、筆記用具、プリント）

科目の目標

- 【知識及び技能】 ①書道史と臨書の意義を理解して真筆に課題に取り組むことができる。  
②実用的な書の体裁を理解し各種の書状が書ける。  
③伝統文化に親しみ創造性を発揮して創作できる。
- 【思考力、判断力、表現力等】 ①書道史の変遷を理解し、臨書を通して伝統文化に親しむことができる。  
②正しい姿勢で筆使いや体裁を工夫して創造性を発揮し、向上心を持って取り組むことができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 ①丁寧に真剣に文字と向き合い、集中して課題に取り組むことができる。  
②自己表現の追求のために不断に努力し、周囲に配慮して自他共に大切にできる。  
③準備から後片付けまで真摯な態度で取り組むことができる。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①国語科の中の書写と芸術科の中の書道の違いを理解できる。 ②硬筆（ボールペン）での書き方と体裁を理解し実践できる。 ③毛筆での姿勢・執筆法を正しく理解し実践できる。 ④説明をしっかりと聞いて自ら考え、実践できる。	①用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ②楷書・行書の表現技能が身につけている。 ③漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ等の体裁が整えられている。 ④授業に臨む態度が正しく一貫持続している。	①毎時間の課題を時間内に仕上げて提出する。 ②丁寧に真剣に文字と向き合い表現する。 ③周囲に配慮して自他共に大切にできる。 ④欠席・遅刻・居眠りをしない。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①作品・提出物の内容 ②映像教材視聴プリント他	①作品（硬筆課題も含む） ②ふりかえり内容 ③課題の鑑賞と練習状況	①学習に取り組む状況 ②ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績（実施日）					配当時間	評価
								3組	4組	5組	6組	7組		
1	4	・正しい姿勢で落ち着いて学習に取り組む。 ・筆の持ち方を意識して練習する。 ・書道史、臨書について理解する。	・年間授業の流れの説明 ・生活の中の書を楽しむ ・姿勢、筆の持ち方、文字の形 ・江戸書道展出品準備	○	○	○	観察 作品鑑賞の態度 作品の完成度 (硬筆テキスト含む) ふりかえりの誠実さ						28	
	5	・臨書（隷書・篆書）の用筆法を学ぶ。 ・臨書（楷書・行書）の用筆法を学ぶ。 ・各書体で自分の名前を書く。・硬筆実用書（暑中見舞状）を書く。	・隷書・篆書の鑑賞と実践 ・楷書・行書の鑑賞と実践 ・五体字類の使い方 ・暑中見舞の書き方	○	○	○								
	6			○	○	○								
2	9	・硬筆実用書（履歴書）を書く。 ・かな書の鑑賞と連綿を理解して書く。 ・創作作品に取り組む。・硬筆実用書（年賀状）を書く。	・実用書式（履歴書・のし紙）の書き方 ・かなの連綿を活かした手紙文の書き方 ・今年の漢字、卒業制作等、創作活動 ・年賀状の書き方	○	○	○	観察 作品鑑賞の態度 作品の完成度 (硬筆テキスト含む) ふりかえりの誠実さ						30	
	10			○	○	○								
	11			○	○	○								
3	1	・書道Ⅰ、書道Ⅱで学んだ知識と用筆法を使い記念作品を制作する。 ・硬筆実用書（礼状）を書く。	・創作作品の仕上げ、展示 ・礼状を書く。	○	○	○	観察 作品の完成度 (硬筆テキスト含む) ふりかえりの誠実さ						6	
	2			○	○	○								